

YAMAHA

Clavinova® **CVP-6**



取扱説明書

ヤマハクラビノーバをお買い上げいただきありがとうございます。

ヤマハクラビノーバは、常に新しい音とより高い音楽性を追求するヤマハが、先進のエレクトロニクス技術を結集して完成させた、画期的な鍵盤楽器です。

弾き応えのあるピアノタッチ鍵盤、そして音色はヤマハが新しく開発したAWM音源を採用。リアリティーあふれるサウンドに指先のタッチひとつで自由に表情をつけることができ、アコースティックピアノに迫る豊かな演奏感が味わえます。また、迫力ある16種類のリズムや、自動伴奏機能、さらにMIDI端子までも備え、音楽表現の可能性を大きく広げました。

本書では、まさに未来志向のデジタルピアノといえるクラビノーバの魅力を充分ご活用いただけるよう、その操作方法を機能別に、くわしく説明しています。お読みになった後も大切に保管して、わからないことが出てきたら、もう一度ご覧になってください。

もくじ

	ページ
組み立て方	1
クラビノーバ早わかり	2
PART 1 好きな音色で弾いてみましょう(ボイスセレクト)	4
トランスポージャーとピッチコントロール	5
PART 2 リズムにあわせて弾いてみましょう	6
リズムに変化をつけてみましょう	7
PART 3 ピアノABCで伴奏をつけましょう	8
ベースラインを自分で弾きたいときは…(マニュアルベース)	9
ピアノABC・コード早見表	10
楽譜ミニ知識	11
弾いてみましょう 「瑠璃色の地球」	12
「YESTERDAY」	14
MIDIの楽しみかた	16
MIDIインプリメンテーションチャート	18
故障と誤りやすい現象	19
付属端子とオプション	20
仕様	21

ご使用の前に

ながくお楽しみいただくために、次の点にご注意ください。

●クラビノーバの電源には、必ず家庭用AC100Vの電源コンセントをご使用ください。また、コンセントから抜くときは、コードをひっぱらずに必ずプラグを持って抜いてください。

長く使わない時や雷の鳴っている時はプラグを抜いてください。

●直射日光が当たったり、暖房器具のそばなど極端に暑い場所に置くことはさけてください。本体の外側や内部に悪影響を与え、故障の原因となることがあります。

●特に湿気が多い場所に置くことはさけてください。

●クラビノーバにはデジタル回路を多用しているため、ごく近くでラジオやテレビなどの電気機器を同時に使用すると、雑音や誤動作の原因になることがあります。他の電気機器から充分離してご使用ください。

●過度な衝撃や無理な力を加えると、傷がついたり、故障の原因となることがあります。本体を倒したり、上に座ったりしないように注意してください。

●本体のお手入れは、乾いた布でカラぶきをするか、よごれのひどい時は少し水で湿らせた布でふいてください。

アルコールやシンナー類は、絶対に使用しないでください。

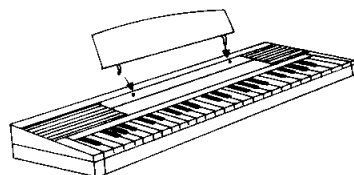
また、塩ビ系のものを長時間置くと、くっつく場合があります。

●ホコリなどからの保護のために、ご使用後は付属のトップカバーをご利用ください。

●ご使用後は、必ずパワースイッチを切ってください。

●譜面立ての立て方

付属の譜面立ては、楽器の上にある2つの穴に、その両端を差しこんで、ご使用ください。

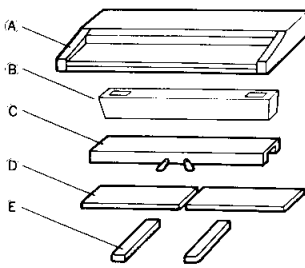





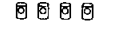
組み立て方

クラビノーバは次のような手順で組み立ててください。

また、解体するときは逆の手順で行ってください。

1 ●箱を開け、各パーツをとりだします。

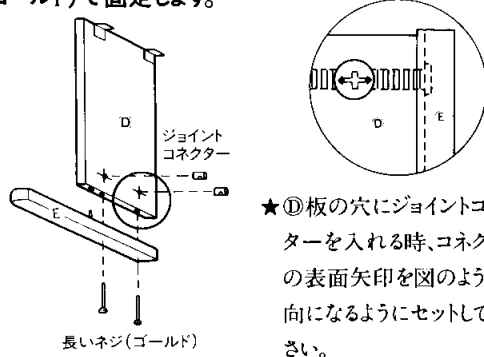


	長いネジ(ゴールド)	4
	中くらいのネジ(ブロンズ)	6
	短いネジ(ブラック)	4
	ジョイントコネクター	4

箱を開けると上図のパーツが入っています。
すべてそろっているかお確かめください。

2 ●①板と⑤をつなぎます。

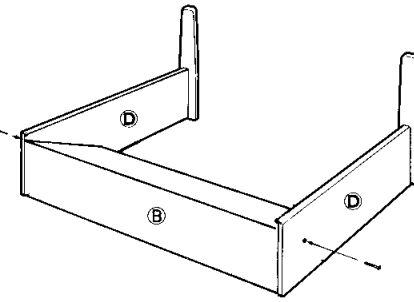
図のようにジョイントコネクターを①板に取り付け、長いネジ(ゴールド)で固定します。



★①板の穴にジョイントコネクターを入れる時、コネクターの表面矢印を図のような方向になるようにセットしてください。

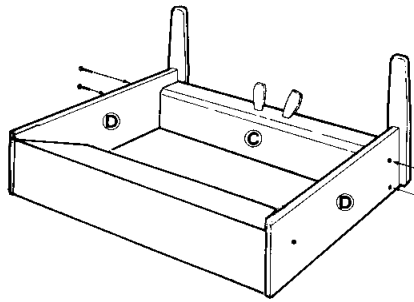
★⑤板を取り付ける時、図にしたがって左右をまちがえないように注意してください。角が丸くなっている方が外がわです。

3 ●③板と④板をつなぎます。



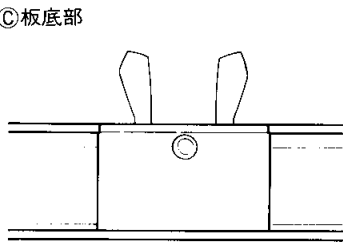
③板の穴と④板の穴をあわせ、2本の中くらいのネジ(ブロンズ)をドライバーでしっかりと止めます。

4 ●④板と⑥板をとりつけます。



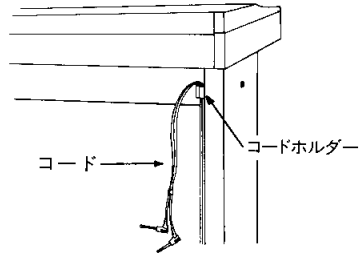
④板に⑥板をとりつけ、4本の中くらいのネジ(ブロンズ)でしっかりととめます。この時、ペダルのついている方が前になるよう、ご注意ください。

★⑥板底部に安定のためのノブボルトがついています。床からの高さに合わせて調節してください。演奏中、ペダルを踏んだ時も安定し、よりペダルの効果をかけやすくなります。



⑥板底部

5 ●コードホルダーにコードをとめます。

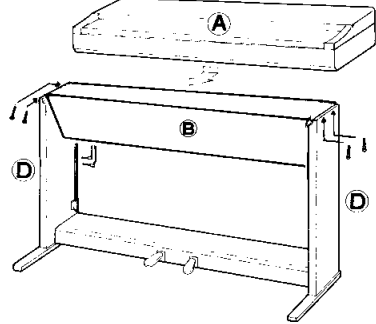


コードホルダー

コード

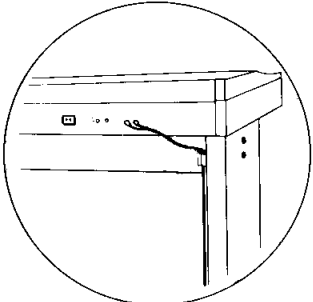
スタンドを起し、③板からでていたペダルのコードを、①板内側のプラスチックのコードホルダーにしっかりととめます。

6 ●鍵盤部をはめこみます。



④の鍵盤部を、①板のミジにあわせて後方から前へスライドさせ、動かなくなるまではめこみます。③板、①板の金具の穴と、④板の穴をあわせ、短いネジ(ブラック)でしっかりととめます。

7 ●プラグを接続します。



鍵盤部④背面の付属端子にペダルのプラグを差し込みます。
グレーのプラグはDAMPER端子、黒いプラグはSOFT端子に接続してください。

クラビノーバ早わかり

まずは、クラビノーバのアウトラインをつかみましょう。
くわしくは()のページをご覧ください。

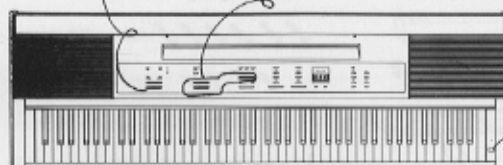
したく 1 まずはクラビノーバのセット。

- ①1ページの説明を読みながら、クラビノーバを組み立てます。
 - ②電源に接続します。
- ★必ずAC100Vのコンセントから電源をとるようにしてください。

したく 2 音を出す準備。

- ①パワースイッチをON。
- ②マスターボリュームを上げます。
- ③それ以外のボリュームも、とりあえずまん中くらいにしておきます。

②マスターボリュームはここ ③ボリュームはすべてまん中くらいに



レフトペダル (P4)
レフトペダルの機能を選ぶボタン。

マニュアルベース (P9)
ベースラインを自分で演奏したいときは、このボタンをON。

(P20)
本体背面のこのあたりに 付属端子がついています。ほかの楽器やオーディオとつなげるときなどにお使いください。

MIDIモード (P16-17)
MIDI端子を使うときに押すボタン。

トランスポーザー (P5)
キーを調節するボタン。

ブリリアンス (P4)
このレバーを左に動かすほどやわらかい音になり、右に向かって動かすほどきらびやかな音になります。

マスターボリューム (P4)
全体の音量調節をするレバー。

ヘッドホン端子 (P20)
ヘッドホンを接続する端子。

〈ピアノABC用鍵盤〉

自動伴奏をするときは、この鍵盤を使います。

リズム (P6~7) リズムを鳴らしましょう。

演奏はリズムに合わせて。ノリに良かったら、体で拍子をとってみましょう。

- ①好きなリズムを選びます。
 - ②ボリュームをまん中くらいに。
 - ③スタートを押します。
- 選んだリズムが鳴り出しましたネ。

バリエーション

リズムのパターンが変わります。



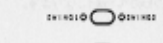
シンクロスタート

このボタンを押すとリズムスタンバイとなり、オートベースコード用鍵盤を押せば、リズムがスタート。



テンポインジケータ

テンポを表示します。



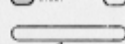
ビートランプ

リズムの速さを示すランプ。1拍ごとに点滅します。



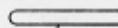
ストップ

演奏をストップさせるときに押すボタン。



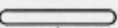
イントロ/エンディング

イントロカウントでリズムをスタートさせるときや、演奏の終わりをキメたいときに押すボタン。



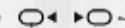
フィルイン

リズムが鳴っているときにこのボタンを押すと、その小節だけリズムがカッコよくなります。



テンポがおそくなります。テンポコントロール

テンポが速くなります。



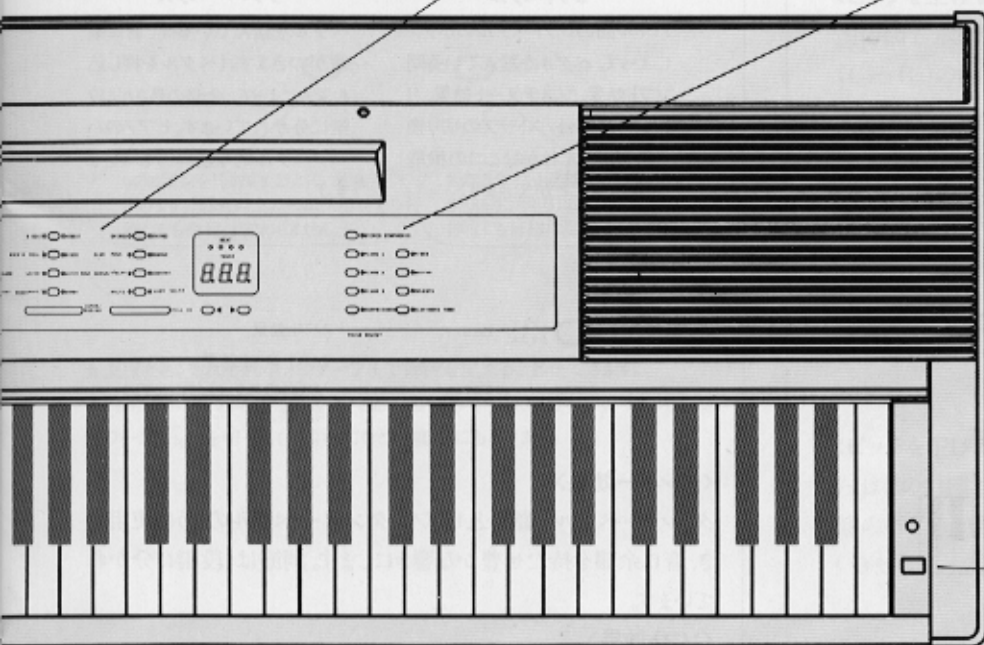
ボイスセレクト (P4) 音色を選びましょう。

クラビノーバの音色は8種類。AWM音源によるイキイキとした、ピアノやハープシコードなどの楽器音が選べます。

ステレオシンフォニック音にうるおいをもたせ、広がりのある響きにするボタン。



好きな音色を選びましょう

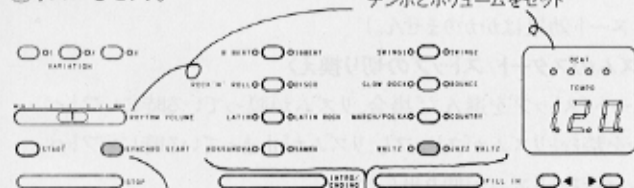


パワースイッチ
電源を入れるスイッチです。

ピアノABC (P8) 自動伴奏にトライ!

ABCはオートベース/コード(Auto Bass Chord)の略。和音をおさえるだけで、リズムにのったコードとベースによる伴奏ができます。

- ①リズムをセット。



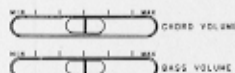
テンポとボリュームをセット

シンクロスタートをON リズムをひとつON

- ②ABCオンのボタンを押します。



- ③ピアノABCのボリュームを調節。



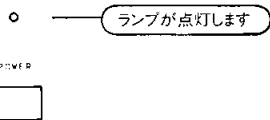
- ④ピアノABC用鍵盤でコード(和音)をおさえてみましょう。

鍵盤をおさえると同時に、和音とベース音による伴奏がリズムにのってでてきました。



好きな音色で弾いてみましょう

1 パワースイッチをON



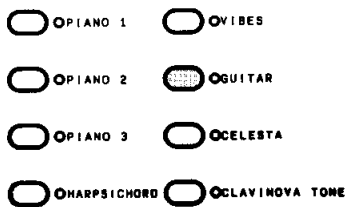
★パワースイッチをONした時は、いつもピアノ1の音色と8ビートのリズムが選ばれます。
★スイッチを押した後、約3秒後くらいに音が出る状態になります。

2 マスターボリュームを調節。



★マスターボリュームは、全体の音量を調節します。

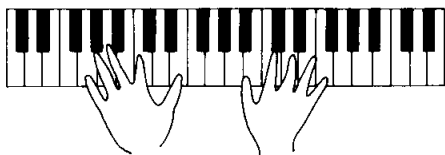
3 ボイスセレクトから好きな音色をひとつ選んでON。



★2つの音色を同時に選んでミックスさせることはできません。

4 鍵盤を弾いてみましょう。

いろいろな音色で弾いてみましょう。



★鍵盤タッチの強弱によって、音の強さを調節することができます。
★12音ポリフォニック。つまり、12の鍵盤まで同時におさえて鳴らすことができます。

5 ステレオシンフォニックを加えてみましょう。



音にうるおいをもたせ、広がりのある響きにします。
曲想に応じて、ご使用ください。

6 ブリリアンスを調節してみましょう。



← 左に向かって動かすほどやわらかい音になります。
→ 右に向かって動かすほどきらびやかな音になります。

7 ペダルを使ってみましょう。

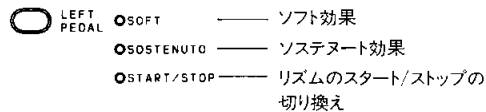


レフトペダル

ダンパーペダル

パネル面のレフトペダルのボタンによって、ペダルを踏んでいる間ソフト効果、ソステヌート効果、リズムのスタート/ストップの切り換えのうち、いずれかひとつの機能をもたせることができます。

ペダルを踏んでいる間、音に余韻がつきます。(ペダルを押し込む深さによって、余韻の長さが4段階に分かれています。ピアノのハーフペダル的な使い方もできます。)



<ダンパー効果>

ダンパーペダルを踏むと、ピアノのダンパーペダルのように使用でき、音に余韻を持たせ豊かな響きにします。調節は4段階に分かれています。

<ソフト効果>

ソフト効果を選んだ場合にレフトペダルを踏むと、ピアノのソフトペダルのように使用でき、音をやわらかな響きにします。

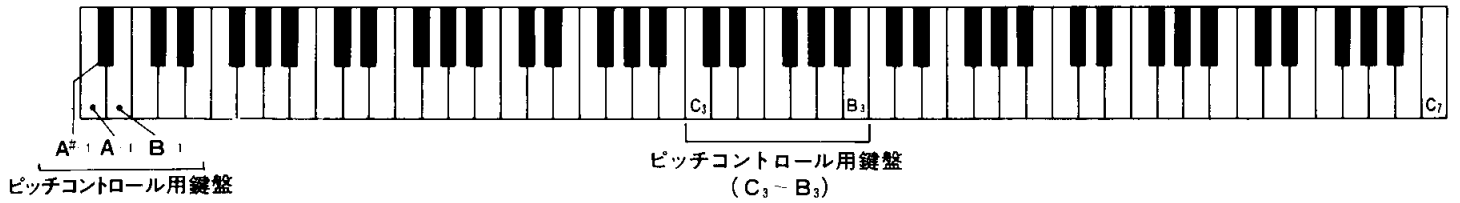
<ソステヌート効果>

ソステヌート効果を選んだ場合、レフトペダルを踏んだ時点でおさえていた鍵盤の音のみに、ダンパーと同じ豊かな響きをもたせることができます。(ペダルを踏んだあとでおさえた鍵盤の音には、ソステヌート効果はかかりません。)

<リズムのスタート/ストップの切り換え>

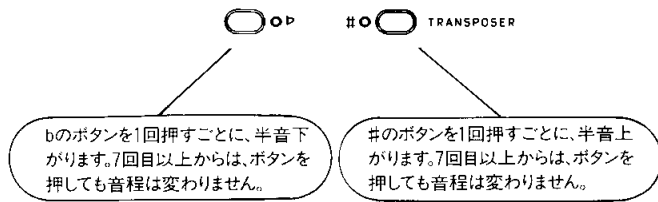
スタート/ストップを選んだ場合、リズムが鳴っている時にレフトペダルを踏むとリズムがストップし、リズムが止まっている時にレフトペダルを踏むとリズムが鳴り出します。

トランスポーターとピッチコントロール



トランスポーター

トランスポーターは、歌の伴奏をする時に歌う人の声の高さにキーを合わせるなど、移調を簡単に行うことができます。



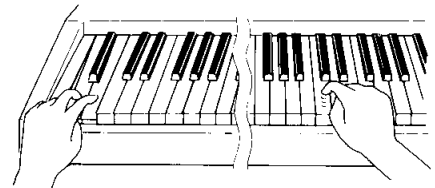
- ★上下とも、それぞれ半オクターブまで音程を変えることができます。
- ★bと#のボタンを同時に押すと、もとの音程(A₃=440Hz)にもどります。また、パワースイッチを切っても、同様にもとの音程にもどります。

ピッチコントロール

他の楽器と音程を合わせてアンサンブルをする時などに、ピッチコントロール用鍵盤を使って微妙な音程を調節することができます。

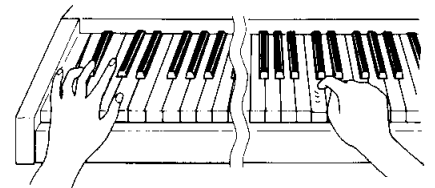
<ピッチを上げる時>

上の図で示した左はじの白鍵2音を同時に押したまま、中央のド〜シ(C₃~B₃)の鍵盤のいずれか1音を押します。押すごとに音が鳴り、ピッチが上がっていきます。



<ピッチを下げる時>

左はじの白鍵と黒鍵を同時に押したまま、中央のド〜シ(C₃~B₃)の鍵盤のいずれか1音を押します。押すごとに音が鳴り、ピッチが下がっていきます。



- ★上下とも、1回押すごとに約3セント音程が変化します。可変幅は約±50セントです。
- ★いったんパワースイッチを切ると、もとの音程(A₃=440Hz)にもどります。

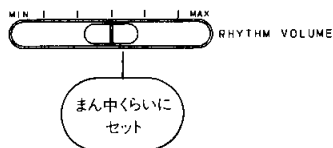
リズムにあわせて弾いてみましょう

1 リズムセレクトから好きなリズムをひとつ選んでON。



- ★同じボタンをもう一度押せば、左右反対がわのリズムが選べます。
- ★2つ以上のリズムを組み合わせて使うことはできません。

2 リズムボリュームを調整。



- ★リズムボリュームが最小(MIN)の位置にあると、リズムの音は出ません。マスターボリュームが最小の位置にあると、リズムボリュームを最大にしてもごく小さな音になります。

3 スタート、シンクロスタートのどちらかをON。



〈スタート〉

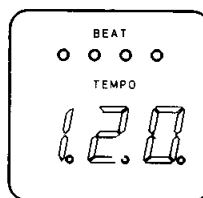
ボタンを押すと同時に、選んだリズムが第1拍目から鳴りはじめます。

〈シンクロスタート〉

このボタンを押すと演奏スタンバイの状態となり、ビートランプの1拍目が点滅してリズムの速さを示します。ピアノABC用鍵盤(いちばん左側の鍵盤から、電源を入れた時はF₅の鍵盤まで。キースプリットの機能を使っている時はE₀以上C₃以下のいずれかの鍵盤まで)を押すと同時に、選んだリズムが第1拍目から鳴りはじめます。

- ★シンクロスタートのボタンを使うと、ビートランプでテンポを確認して、メロディとリズムを同時にスタートさせることができます。
- ★リズムとピアノABCが鳴っている状態でスタートボタンを押すと、つぎにピアノABC用鍵盤を押すまで、自動伴奏がブレイクします。
- ★シンクロスタートのボタンをもう一度押すとリズムが止まり、再び演奏スタンバイ状態にもどります。ブレイクなどの時に便利です。

4 テンポコントロールで、リズムの速さを調節。



ビートランプ

左から右へ1拍ごとにランプが点滅し、リズムの速さを示します。

テンポインジケーター

現在のテンポが、1分間に何拍打つ速さ(♩=)であるかを表示します。(可変幅は♩=32~280)



テンポコントロール

◀のボタンを押すとテンポが遅くなり、▶のボタンを押すとテンポが速くなります。

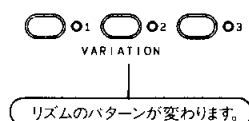
- ★テンポコントロールの◀と▶のボタンを同時に押すと、電源投入時の速さ(♩=120)にもどります。

- ★リズムを止める時は、ストップを押します。

- リズムのスタート/ストップは、レフトペダルでも行うことができます。
➡ 4ページをご覧ください。

リズムに変化をつけてみましょう

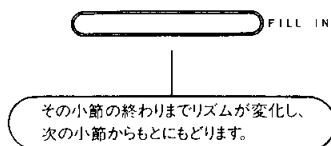
5 バリエーション(1~3)のボタンをいろいろ押してみましょう。



つまり、このバリエーションのボタン1~3を使うことによって、1つのリズムに対して3種類、合計 $16 \times 3 = 48$ 種類のリズムパターンが選べることになります。

★電源投入時はバリエーション1にセットされています。

6 フィルインをON。

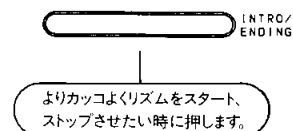


フィルインは、メロディーの切れ目などに押すと、グッと演奏がもりあがります。

★フィルインでリズムをスタートさせることもできます。まずシンクロスタートを押し、それからフィルインを押してください。ビートランプの1拍目が点滅、2拍目が点灯し、フィルインでリズムがスタートすることを示します。

★フィルインを押し続けると、変則的なリズムが長く続きます。

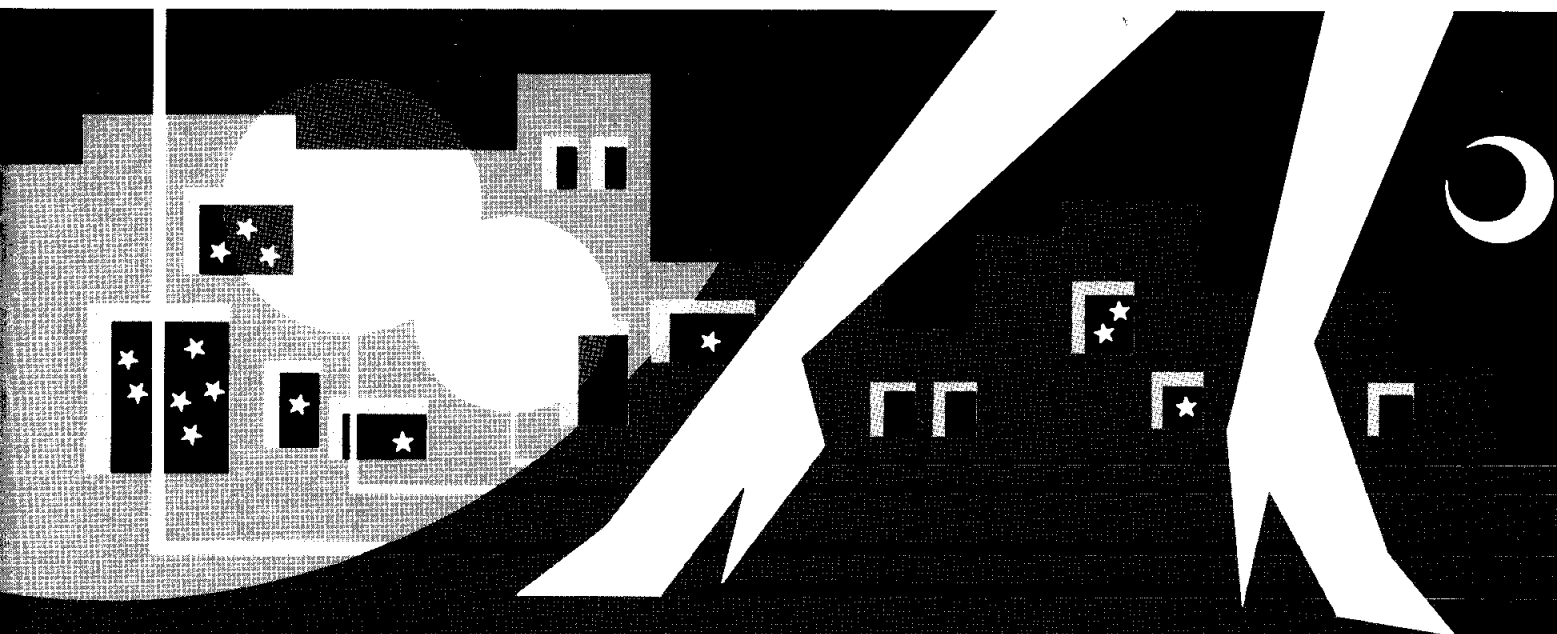
7 イントロ/エンディングをON。



イントロとして使う時は、カウントをとってからリズムがスタート。テンポを確認して演奏をはじめます。また、曲の終わりに使用すると、カッコよくエンディングをキめることができます。

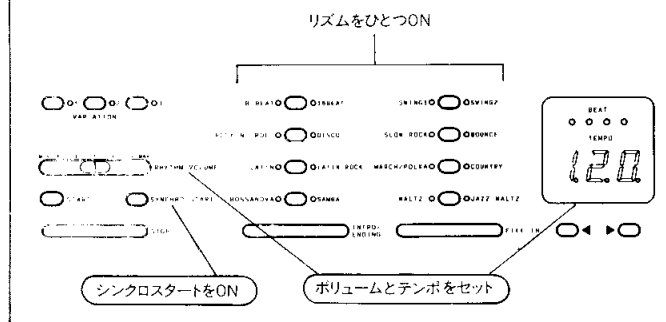
★リズムストップ中にイントロ/エンディングをONすると、リズムが2小節のイントロパターンでスタートします。

★リズムが鳴っている間にイントロ/エンディングをONすると、次の小節(1小節)が終わったあと、リズムがストップします。また、小節の後半にONすると、次の小節の頭からエンディングのパターンとなります。



ピアノABCで伴奏をつけましょう

1 リズムをセット。



2 ABCオンのボタンを押します。



ピアノABCスイッチをONにすると、鍵盤の上に▽マークが付いている鍵盤から左がピアノABC用鍵盤になります。

★ピアノABC用鍵盤と、メロディを弾く鍵盤とのスプリット点は、C3以下のいずれかの場所に変更することができます。たとえば、G2をスプリット点にした場合は、リズムを止めてABCオン(またはマニュアルベース)のボタンをOFFにし、G2の鍵盤をおさえながらABC(またはマニュアルベース)のボタンをONにします。

3 ピアノABCのボリュームを調節。



★コードボリューム、ベースボリュームが最小(MIN)の位置にあると、その音は出ません。

4 ピアノABC用鍵盤でコード(和音)をおさえましょう。

鍵盤をおさえると同時に、和音とベース音による伴奏がリズムに合わせてでています。



★鍵盤から指を離れたあとも、同じ伴奏がくり返されます。コードが変わるときだけ鍵盤をおさえてください。

★コードを変えるところで、指を鍵盤から離さないで動かすと、コードが変わらないことがあります。いったん鍵盤から指を離すようにしてください。

★ピアノABCの音色は、音色セクターで選んだ音色とは関係ありません。また、リズムをスタートさせていなくても、ピアノABCスイッチがONされていると、ピアノABC用鍵盤から、音色セクターで選んだ音色はなりません。

★伴奏を止めるときは、リズムのストップを押します。

★検出するコードは次の8種類です。

〈例〉Cコードの場合

C、C_m、C_{M7}、C₆、C_{m7}、C_{m7}⁻⁵、

C₇、C₇SUS₄

但しABCのコードパターンには

M、m、7thの3種類があり下記コードはそれぞれ

M₇ → M

6th → M

m⁷ → m

m⁷⁻⁵ → m

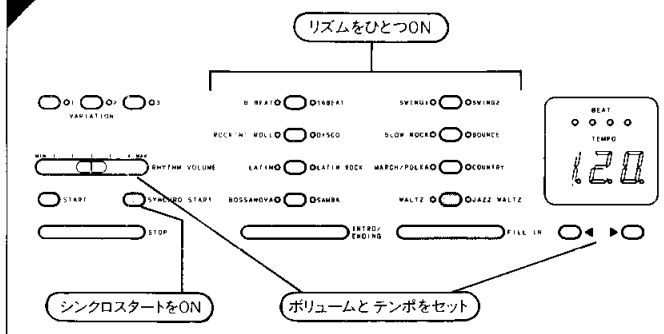
7_{SUS4} → 7th

のコードパターンで演奏されます。

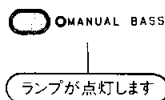
★ピアノABCがONのとき、メロディ部の鍵盤で同時におさえられるのは6音です。

ベースラインを自分で弾きたいときは…

1 リズムをセット。



2 マニュアルベースをON。



3 ピアノABC用鍵盤でベースラインを演奏してみましよう。



左手でベース演奏、右手でコードを刻んで弾き語りをしたり、ベースラインに面白さがある曲を演奏するときなどに使いましょう。

- ★マニュアルベースのベース音色は、選んだリズムによって自動的にセットされます。
- ★マニュアルベースがONのとき、メロディ部の鍵盤で同時におさえられるのは6音です。

転回テクニックでラクラク演奏

コード早見表(P10)には、コードのアタマについているアルファベット大文字が最低音になっているのっています。このようにアルファベット大文字、つまり専門用語で“ルート”とか“根音”と呼ばれる音をいちばん低い音にしたカタチをコードの“基本形”といいます。

例1

C 基本形	転回その1	転回その2

この転回ワザを身につけると、響きを楽しむと同時に、ピアノABCをつかう場合の演奏をラクにすることができます。例2)を見てください。㉔はCコードもAmコードも基本の形。“ドミソ”→“ラドミ”と変わります。次に㉕

では“転回形”とは何か、というと、音の積みかさねの順番をちょっと変えること。たとえば、例1)のようにCメジャーコードを例にとると、基本形は“ドミソ”ですが、それを転回して“ミソド”と弾いても“ソドミ”と弾いても、Cメジャーコードには変わらないのです。

例2

C	Am	C	Am

全部の指をおさえなおす (A) 1本だけ (B)

コード早見表

※の転回形以外は、すべて基本形でのっています。

9ページの転回テクニックをつかって、一番演奏しやすいカタチをおさえましょう。

メジャーコード

C	
D [♭] (C [♯])	
D	
E [♭] (D [♯])	
E	
F	
F [♯] (G [♭])	
G	
A [♭] (G [♯])	
A	
B [♭] (A [♯])	
B	

マイナーコード

Cm	
D [♭] m (C [♯] m)	
Dm	
E [♭] m (D [♯] m)	
Em	
Fm	
F [♯] m (G [♭] m)	
Gm	
A [♭] m (G [♯] m)	
Am	
B [♭] m (A [♯] m)	
Bm	

セブンスコード

C7	
D [♭] 7 (C [♯] 7)	
D7	
E [♭] 7 (D [♯] 7)	
E7	
F7	
F [♯] 7 (G [♭] 7)	
G7	
A [♭] 7 (G [♯] 7)	
A7	
B [♭] 7 (A [♯] 7)	
B7	

マイナーセブンスコード

Cm7	
D [♭] m7 (C [♯] m7)	
Dm7	
E [♭] m7 (D [♯] m7)	
Em7	
Fm7	
F [♯] m7 (G [♭] m7)	
Gm7	
A [♭] m7 (G [♯] m7)	
Am7	
B [♭] m7 (A [♯] m7)	
Bm7	

メジャーセブンスコード

Cmaj7	
D [♭] maj7 (C [♯] maj7)	
Dmaj7	
E [♭] maj7 (D [♯] maj7)	
Emaj7	
Fmaj7	
F [♯] maj7 (G [♭] maj7)	
Gmaj7	
A [♭] maj7 (G [♯] maj7)	
Amaj7	
B [♭] maj7 (A [♯] maj7)	
Bmaj7	

シックスコード

C6	
D [♭] 6 (C [♯] 6)	
D6	
E [♭] 6 (D [♯] 6)	
E6	
F6	
F [♯] 6 (G [♭] 6)	
G6	
A [♭] 6 (G [♯] 6)	
A6	
*B [♭] 6 (A [♯] 6)	
*B6	

マイナーセブンス
フラットドフィフスコード

Cm7 ⁻⁵	
D [♭] m7 ⁻⁵ (C [♯] m7 ⁻⁵)	
Dm7 ⁻⁵	
E [♭] m7 ⁻⁵ (D [♯] m7 ⁻⁵)	
Em7 ⁻⁵	
Fm7 ⁻⁵	
F [♯] m7 ⁻⁵ (G [♭] m7 ⁻⁵)	
Gm7 ⁻⁵	
A [♭] m7 ⁻⁵ (G [♯] m7 ⁻⁵)	
Am7 ⁻⁵	
*B [♭] m7 ⁻⁵ (A [♯] m7 ⁻⁵)	
*Bm7 ⁻⁵	

セブンスサス・フォーコード

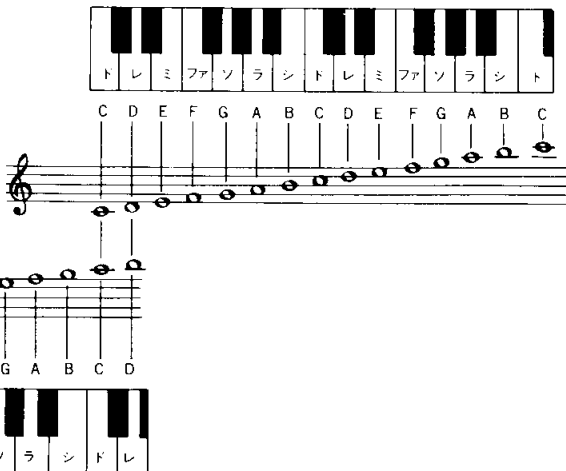
C7sus4	
C [♯] 7sus4 (D [♭] 7sus4)	
D7sus4	
E [♭] 7sus4 (D [♯] 7sus4)	
E7sus4	
F7sus4	
F [♯] 7sus4 (G [♭] 7sus4)	
Gsus4	
A [♭] 7sus4 (G [♯] 7sus4)	
A7sus4	
*B [♭] 7sus4 (A [♯] 7sus4)	
*B7sus4	

楽譜三二知識

■五線譜の読み方は

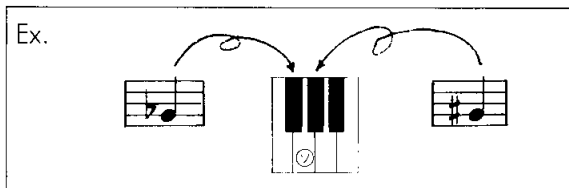
はじめに、鍵盤と五線譜の関係を示してみると…

英語ではこのようにアルファベットで読みますが、たとえばドの場合の英語はC。そして、この音をもとにしてつくられる和音を“Cコード”と呼びます。



★黒鍵は、音符に“#”“b”がついている時に使います。

“#”なら右上、“b”なら左上の黒鍵をおさえます。



■音符と休符の長さ

音符の種類と名称	4分音符と比較した長さ	休符の種類と名称	4分休符と比較した長さ
全音符	4つ分のばす	全休符	4つ分休む
付点2分音符	3つ分のばす	付点2分休符	3つ分休む
2分音符	2つ分のばす	2分休符	2つ分休む
4分音符		4分休符	
8分音符	半分にする	8分休符	半分休む
16分音符	1/4にする	16分休符	1/4休む
3連音符 (3連符)	3等分する		

←3→
(., ., . は、を3等分)

■記号も覚えましょう

記号と読み方	意味
# シャープ	半音あげる
b フラット	半音さげる
♮ ナチュラル	♯のついていた音をもとの音にもどす
タイ	音をつなげる (この場合♪と同じになる)
スラー	なめらかに弾く
フェルマータ	その音をながくのばす
Tacet タセット	伴奏を休む
Fine フィーネ	おわり

記号とよみ方	意味
リビート	くりかえし
1番かっこ 2番かっこ	くりかえしのあと2へ
D.C. タカーホ	最初からくりかえし、Fine D.C.でおわり
D.S. タルセーニョ	記号※からくりかえし、Fine D.S.でおわり
♯Coda コーダ	to ♯Codaへ ※Codaへ

〈最初のセッティング〉

8ビートにセット

Control panel for the automatic accompaniment system. It includes various settings for rhythm, volume, and sound effects, along with a digital display showing '82'.

<input type="checkbox"/> HORN	<input type="checkbox"/> HORN	<input type="checkbox"/> HORN	<input type="checkbox"/> HORN	<input type="checkbox"/> HORN	<input type="checkbox"/> HORN	<input type="checkbox"/> HORN	<input type="checkbox"/> HORN	<input type="checkbox"/> HORN	<input type="checkbox"/> HORN
<input type="checkbox"/> HORN	<input type="checkbox"/> HORN	<input type="checkbox"/> HORN	<input type="checkbox"/> HORN	<input type="checkbox"/> HORN	<input type="checkbox"/> HORN	<input type="checkbox"/> HORN	<input type="checkbox"/> HORN	<input type="checkbox"/> HORN	<input type="checkbox"/> HORN
<input type="checkbox"/> HORN	<input type="checkbox"/> HORN	<input type="checkbox"/> HORN	<input type="checkbox"/> HORN	<input type="checkbox"/> HORN	<input type="checkbox"/> HORN	<input type="checkbox"/> HORN	<input type="checkbox"/> HORN	<input type="checkbox"/> HORN	<input type="checkbox"/> HORN

82

瑠璃色の地球

作詞：松本隆 作曲：平井夏美

Musical notation for the first system, including a piano introduction with chords C, ConB^b, FonA, and FmonA^b. The bass line is noted as being two octaves lower.

(2オクターブ低く)

Musical notation for the second system, including a piano introduction with chords C, ConB^b, FonA, and FonGG.

↑
シンクロスタートON

Musical notation for the third system with lyrics:
 C: よあけのこないよ
 Bm7: るはないさ
 E7: かなしみに
 Am: あなたがポツリ言
 F#m7⁻⁵: う
 なやんだひもある
 くじけそうなとき
 も

Musical notation for the fourth system with lyrics:
 1. F: とうだいのたつみ
 Em7: さきで
 Am7: く
 Dm7: らい
 G7sus4: うみを
 G7: み - ていた

2. F Em7 Am7 F#m7 G7sus4 G7

あなたがそこにい たから いきてこ られ た

C Dm7 Bm7⁻⁵ E7 Am A7

あさひがすいへい せーんから ひかりのやをはな ち ふたりをつつんで

Dm7 F G7sus4 G7 to C Em7⁻⁵ A7 Dm7

ゆくのル リいろのちきゅう - ひとつしかな い

B7 Em7 Am7 Dm7 G7

わたしたちの ほしをまもりたい -

D.S.

Coda C Am Dm7 G7

- ル リいろのちきゅう

Rhythm Stop
ABC OFF

C ConBb FonA FonGG C

う

B \flat C F C Dm G B \flat F

There's a sha - dow hang - ing ov - er me — Oh, yes - ter - day — come sud - den - ly —
 Now I need a place to hide a - way — Oh, I be - lieve — in yes - ter - day —

Em7^{onA} A7 Dm C B \flat Gm C7 F

Why she had to go I don't know she would-n't say —

Em7^{onA} A7 Dm C B \flat Gm C7 F

I said some - thing wrong now I long far yes - ter - day. —

D.S.

♩ Coda

B \flat F C Dm G B \flat F

Yes - ter - day — Mm mm mm mm mm mm mm. —

MIDIの楽しみかた

クラピノーバには先進のエレクトロニクス楽器ならではの楽しみ方ができる、MIDI端子がついています。他のキーボードと接続してひとりでアンサンブルをしたり、パソコンとつないでクラピノーバに自動演奏させるなど、より多彩な音楽表現をすることができます。

MIDIとは…?

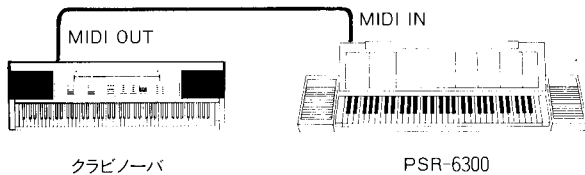
MIDIは「ミディ」と読み、Musical Instrument Digital Interface(ミュージカル・インストゥルメント・デジタル・インターフェイス)の略。日本語にすると「楽器間デジタル通信」ということとなります。簡単にいうと、電子楽器と電子楽器がうまくコミュニケーションをとりあい、その情報(つまり音程とか音

をのぼす長さなど)を互いに交換するためのもの。そして、このMIDIは世界の電子楽器の統一規格。どこのメーカーの製品でも、MIDIがついていれば情報交換をすることができるのです。

とりあえず、つないでみましょう。

■クラピノーバを演奏して他のキーボードとアンサンブル

(例:ポータートーンPSR-6300との接続)

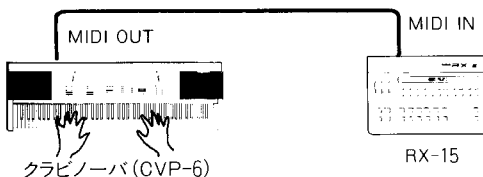


上図のようにクラピノーバのMIDI OUTとPSR-6300のMIDI INを接続すれば、クラピノーバを演奏するだけでPSR-6300からも音がだすことができます。つまりクラピノーバの鍵盤をおさえた情報が瞬時にPSR-6300に伝わり、音程や音の長さ、タッチなどの同じ音がPSR-6300からもでて、厚みのある演奏ができるのです。この時、音色は別々に指定することができるので、クラピノーバのピアノ系音色にPSR-6300のストリングス系の音色を組み合わせるとピアノコンチェルト風の演奏をひとりで楽しむなど、工夫でいろいろなアンサンブルをつくりだすことができます。

この演奏する方のキーボード(この場合はクラピノーバ)を「マスター」、情報を受けとって音をだす方を「スレーブ」と呼びます。このほか、DX7などと接続しても、アンサンブルが楽しめます。

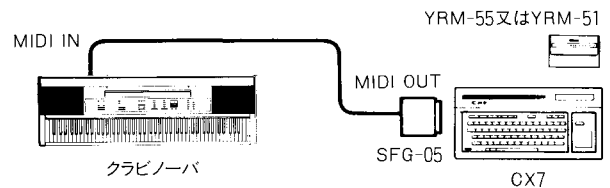
また、クラピノーバの方を「スレーブ」にして、他のキーボードの演奏にユニゾンで鳴らすこともできます。

■リズムマシンRX15とブレイ



クラピノーバのリズムもPCM音源だけあってなかなかの迫力ですが、もっとラテンっぽいリズムの華やかな曲を雰囲気だして演奏したいとか、曲の途中にドラムソロを入れたい、なんていうときは、リズムマシンRX15と図のように接続。また、RX15は10曲分もメモリーすることができるので、あらかじめドラムパートをメモリーさせておき、クラピノーバのリズムとあわせてツインドラムで楽しむこともできます。

■パソコンでクラピノーバ自動演奏



自分でプレイするかわりに、パソコンでクラピノーバに演奏させるという楽しみ方もできます。たとえばヤマハMSXパソコンCXシリーズには、ミュージックコンポーザー(YRM-55又は、YRM-51)という音楽入力用ソフトがありますので、これを使って、演奏させたい曲を打ち込むだけ。クラピノーバが自動演奏してくれます。音色は、曲のイメージにあわせて自由に選べます。

MIDI仕様

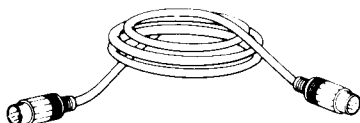
■クラピノーバのMIDIでできること

- 鍵盤押鍵情報の送信・受信
- 音色ナンバーの送信・受信
- レフトペダル、ライトペダルのコントロールの送信・受信
- MIDIクロックの送信・受信

■電源ON時の状態

- クロックはインターナルクロック。
- 送信チャンネルは1に設定されています。
- 受信チャンネルは1に設定されていますが、どのチャンネルからの送信も受信します。(OMNI ONの状態)
- ローカルはオン。
- プログラムチェンジキャンセルはOFF、つまり音色ナンバーの送信・受信を行うことができる状態。
- コントロールチェンジキャンセルはOFF、つまりペダルコントロールの送信・受信を行うことができる状態。

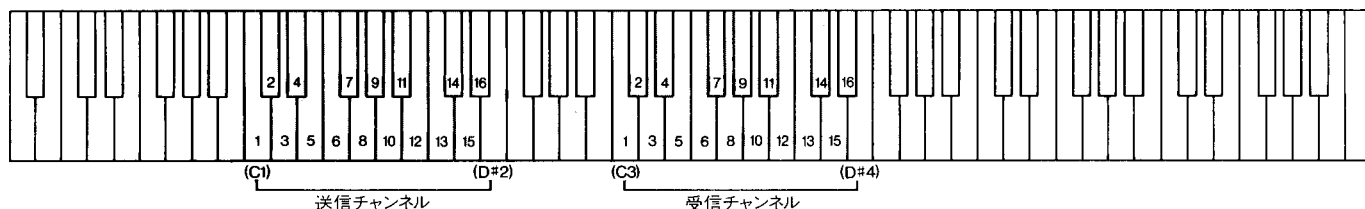
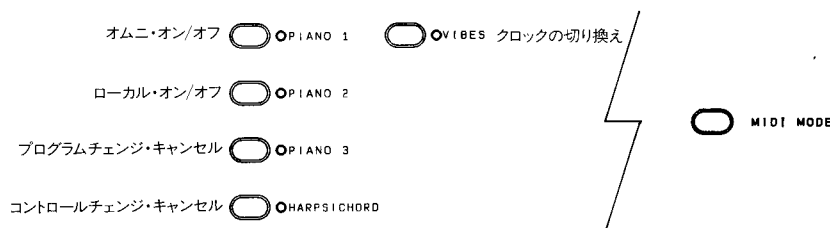
接続に使うMIDIケーブル



MIDI-15 (15m)
MIDI-03 (3m)

MIDIモードの設定

MIDIモードのボタンを押すと、音色セクターのボタンや鍵盤が下の図のような役割をするようになります。(下の各操作はリズムが鳴っていると機能しません。必ずリズムをストップさせてから行ってください。)



A. 必要な情報だけを送・受信するには (送・受信チャンネルの設定)

MIDIでは必要な情報だけを送・受信できるように、各情報にはチャンネルナンバーが設定されています。このチャンネルとは、テレビのチャンネルのようなもの。いろいろな放送局がそれぞれ決められたチャンネルで同時に放送しているものの中から、見たい番組をひとつ選んでその局のチャンネルに合わせるのと同じです。MIDIには1~16チャンネルまで使用でき、次の操作によって、チャンネルをセットします。

操作

- MIDI MODEのボタンを押したまま、上の図に示した送信チャンネルの鍵盤をひとつ押えれば、送信チャンネルがそのナンバーにセットされます。
- MIDI MODEのボタンを押したまま、受信チャンネルの鍵盤をひとつ押えて、受信チャンネルナンバーもセットできます。
- ★電源ON時はオムニ・オンのため、受信チャンネルをセットしてもすべての情報を受信します。

B. 必要な情報だけを受信するには (オムニ・オン/オフの切り換え)

オムニ・オン/オフというのは、受信した時にその情報のチャンネル指定に従うか(オムニ・オフ)、無視するか(オムニ・オン)の設定です。電源ON時はオムニ・オン、つまり何チャンネルかの指定に関係なく送られてきた情報をすべて受け取ります。そこで必要な情報だけを受信するには、A.の受信チャンネルの設定をするのと同時に、オムニ・オフのモードにします。

操作

- MIDI MODEのボタンを押しながら、ピアノ1のボタンをON。ランプが点灯すればオムニ・オフ、もう1度押せばランプが消え、オムニ・オンに戻ります。

C. 本体から音をださずに押鍵情報を送信するには (ローカルオン/オフの切り換え)

ローカル・オフのモードにすると、鍵盤を押しても演奏しているクラビノーバ本体からは音がでなくなり、MIDI情報を受信している他のキーボードのみから音がでます。また、他の楽器から送られたMIDI情報(押鍵)を受信した時は音が鳴ります。

操作

- MIDI MODEのボタンを押しながら、ピアノ2のボタンをON。ランプが点灯すればローカル・オフ。もう1度押せばランプが消え、ローカル・オンに戻ります。

D. 音色の切り換えの情報を送・受信しない時には (プログラムチェンジ・キャンセル)

音色の切り換えの情報を送・受信したくない時に使うモードです。

操作

- MIDI MODEのボタンを押しながら、ピアノ3のボタンをON。ランプが点灯すればプログラムチェンジ・キャンセルモード。

E. ペダルのコントロール情報を送・受信しない時には (コントロールチェンジ・キャンセル)

ダンパーペダル、ソフトペダル、ソステヌートペダルのコントロール情報を送・受信したくない時に使用します。

操作

- MIDI MODEのボタンを押しながら、ハーブシコードのボタンをON。ランプが点灯すればコントロールチェンジ・キャンセルモード。

F. インターナルクロックをMIDIクロックに切り換えるには(クロックの切り換え)

リズムのテンポクロックをMIDIクロックにするときに使用します。

操作

- MIDI MODEのボタンを押しながら、バイブスのボタンをON。ランプが点灯すれば、MIDIクロックモード。

Clavinova CVP-6

MIDIインプリメンテーションチャート

Date: 1987.2.20
Version: 1.0

ファンクション…	送	信	受	信	備 考
ベーシック チャンネル 電源ON時 設定可能	1	チャンネル ○	1	チャンネル ○	
モード 電源ON時 メッセージ 代用	モード3 ×	*****	モード1 オムニ、モノ/ポリ ×		
ノート ナンバー 音 域	21~108 *****		21~108 21~108		
ベロシティ ノート・オン ノート・オフ	○ 90H, V=1~127 × 90H, V=0		○ V=1~127 ×		
アフター キー別 タッチ チャンネル別	×		×		
ピッチ・ベンダー	×		×		
コントロール チェンジ	64 ○ 66 ○ 67 ○		○ ○ ○		ダンパーペダル ソステヌートペダル ソフトペダル
プログラム チェンジ 設定可能範囲	0~7 *****		0~7 0~127		
エクスクルーシブ	×		×		
コモン ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	×		×		
リアル クロック タイム コマンド	○ ○		○ ○		
その他 ローカル ON/OFF オール・ノート・オフ アクティブ・センシング リセット	×		○ ○ ○ ○		
備 考					

モード 1: オムニ・オン, ポリ モード 2: オムニ・オン, モノ
モード 3: オムニ・オフ, ポリ モード 4: オムニ・オフ, モノ

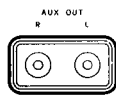
○: あり
×: なし

故障と誤りやすい現象

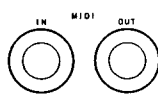
現象	原因	解決法
パワースイッチを入れたとき、ポツンと音がする。	電流が流れたため。	ご心配ありません。
ボイスセレクトで選んだ音色とは別の音色が出る。	①ピアノABCを使っているとき、ピアノABC用鍵盤部で弾いている。 ②マニュアルベースを使っているとき、ピアノABC用鍵盤部で弾いている。	①ピアノABCを使っているとき、ピアノABC用鍵盤部の音色は選んだ音色と関係ありません。ピアノABC用鍵盤部をボイスセレクトで選んだ音色の領域にしたい場合は、ピアノABCのボタンをOFFにします。 ②マニュアルベースを使っているとき、ピアノABC用鍵盤部の音色は選んだリズムによって自動的にセットされます。
鍵盤を同時に17音おさえても16音しか出ない。また、ピアノABC(マニュアルベース)を使っているとき、同時に7音おさえても6音しか出ない。	音色は同時に16音までしか出ないようにになっています。また、ピアノABC(マニュアルベース)を使っているときは6音しか出ないようにしています。	後におさえた音が優先します。
リズムの音が出ない。	①スタートボタンが押されていない。 ②シンクロスタートボタンを押してピアノABC用鍵盤部を押していない。 ③リズムボリュームが最小になっている。 ④クロックがMIDIクロックになっている。	<①②③> 6ページの説明を読んで操作もれがないかどうか確認してください。 <④> 17ページの説明を読んで、クロックをインターナルクロックに戻してください。
リズムセクターで選んだリズムとは別のリズムが出る。	①左右の選択をしていない。 ②フィルインが押されている。	①同じボタンをもう一度押すと、左右反対がわのリズムになります。 ②フィルインを押すと、リズムは変化パターンに切りかわります。
ピアノABCの音が出ない。	①ピアノABCのボタンがOFFになっている。 ②ピアノABC用鍵盤をおさえていない。 ③ピアノABCのボリュームが最小になっている。	8ページの説明を読んで、操作もれがないかどうか確認してください。
ピアノABCで伴奏しているとき、指を変えてもコードが変わらない。	オートベースコード用鍵盤を、指を離さずに弾いているため。	コードを変えるときは、いちど鍵盤から指を離すようにしてください。
ペダルの効果がかからない。	①付属端子にペダルのプラグが接続されていない。 ②ピアノABCのボタンをONにしているとき、ピアノABC用鍵盤で弾いている。	<①> 1ページの組み立て方の説明をよくお読みください。 <②> ペダルの状態は、ピアノABCの音に関係ありません。

付属端子(および調節スイッチ)とオプション

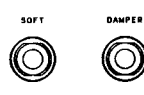
本体背面には図のような付属端子(および調節スイッチ)がついています。これらを活用すれば、クラビノーバの楽しさがいっそう広がります。



①

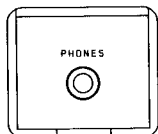


②



③

※上の端子は、本体左後部にあります。



④

※ヘッドホン端子は、本体左手前にあります。

①AUX-OUT端子(L、R)

ご家庭のオーディオなどに接続して、より迫力のあるサウンドで演奏をお楽しみください。この端子とオーディオなどのAUX、IN端子に接続します。また、演奏を録音したい時などにも便利です。音量はマスターボリュームで調節してください。

②MIDI端子(IN-OUT)

コンピュータやシンセサイザーに接続して情報交換するための端子です。(16～17ページ参照)

③ソフト端子、ダンパー端子

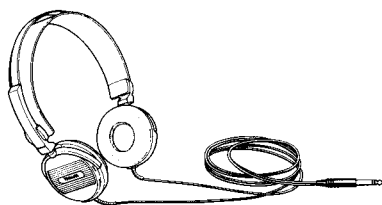
付属のソフトペダル、ダンパーペダルを接続する端子です。接続方法は、1ページの「組立て方」を参照してください。

④ヘッドホン端子

この端子にステレオヘッドホンを接続してください。夜間などでも周囲を気にすることなく、演奏を楽しむことができます。

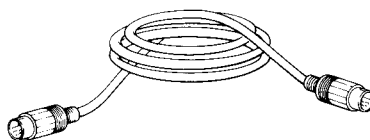
オプション(別売付属品)

■ステレオヘッドホン(HPE-5) ¥5,500

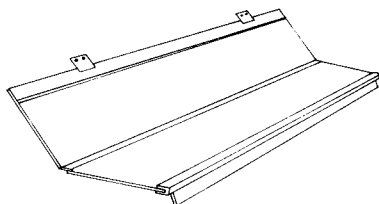


■MIDIケーブル(MIDI-15/15m) ¥3,000

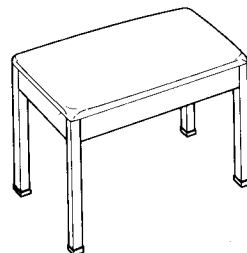
(MIDI-03/3m) ¥1,100



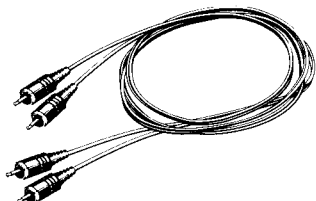
■キーカバー(KC-12) ¥25,000



■イス(BC-5) ¥7,500



■オーディオ接続コード(PSC-3) ¥1,000



仕 様

鍵 盤	88鍵(A ₁ ~C ₇)イニシャルタッチ付
音 色	ピアノ1~3、ハーブシコード、パイプス、ギター、チェレスタ、クラピノーバトーン
効 果	ステレオシンフォニック、ダンパー、ソフト、ソステヌート
リ ズ ム	8ビート—16ビート、ロックンロール—ディスコ、ラテン—ラテンロック、ボサノバ—サンバ、スウィング1—
●リズムセクター	スウィング2、スローロック—バウンス、マーチ/ポルカ—カントリー、ワルツ—ジャズワルツ
●コントロール	リズムボリューム、テンポコントロール、ビートランプ、テンポインジケーター、スタート、シンクロススタート、ストップ
●そ の 他	フィルイン、イントロ/エンディング
ピ ア ノ A B C	ABCオン、マニュアルベース、キースプリット(E ₀ ~C ₃)、ピアノABC用鍵盤(A ₁ ~C ₃)
●コントロール	コードボリューム、ベースボリューム
そ の 他 の コ ン ト ロ ー ル	パワースイッチ、パイロットランプ、マスターボリューム、トランスポージャー(上下に半オクターブ)、ピッチコントロール(±50セント)
付 属 端 子	HEADPHONES、AUX. OUT L-R、DAMPER、SOFT、MIDI IN-OUT
メ イ ン ア ン プ	20W×2
ス ピ ー カ ー	16cm×2、5cm×2
定 格 電 源	AC100V 50/60Hz
消 費 電 力	35W
仕 上 げ	ブラックメタリック/グラニット調仕上げ
寸 法 (間口×奥行×高さ)	136×44×79(cm)
重 量	46kg
付 属 品	スタンド、ダンパーペダル、ソフトペダル、トップカバー

アフターサービスと保証

サービスのご依頼は、お買い上げ店へ直接お申し付けください。

■本機の保証は、保証書によりご購入日から満1か年です。尚、現金、クレジットなどによる保証の区別はいたしません。(日本国内のみ有効)

■保証期間の1か年を過ぎても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。尚、補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後最低8年となっております。また、保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げ店か右記、お近くのサービス網宛お問い合わせください。

■お買い上げ店による修理調整

故障の場合は、直接お買い上げ店にご連絡ください。責任を持って修理調整をいたします。

■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、ご住所、電話番号をハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(楽器の具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万が一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならないようなときにお客さまにご迷惑をおかけしないで済みます。)

YAMAHA電気音響製品サービス拠点
(修理受付および修理品お預り窓口)

東京電音サービスセンター	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL.044-434-3100
新潟電音サービスステーション	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F TEL.025-243-4321
大阪電音サービスセンター	〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内 TEL.06-877-5262
四国電音サービスステーション	〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ(株)高松店内 TEL.0878-51-7777、22-3045
名古屋電音サービスセンター	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター TEL.052-652-2230
九州電音サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL.092-472-2134
北海道電音サービスセンター	〒064 札幌市中央区南10条西1丁目 ヤマハセンター内 TEL.011-513-5036
仙台電音サービスセンター	〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL.022-236-0249
広島電音サービスセンター	〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39 TEL.082-874-3787
浜松電音サービスセンター	〒435 浜松市上西町911 TEL.0534-65-6711
(本社) 電音サービス部	〒435 浜松市上西町911 TEL.0534-65-1158

※住所及び電話番号は変更になる場合があります。

YAMAHA

本 社

シングルキーボード事業部 / 〒430 浜松市中沢町10-1
TEL.0534(60)3275

東京営業所 / 〒104 東京都中央区銀座7-9-18 パールビル
TEL.03(572)3140

大阪営業所 / 〒542 大阪市南区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館
TEL.06(252)7541

名古屋営業所 / 〒460 名古屋市中区錦1-18-28
TEL.052(201)5140

九州営業所 / 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL.092(472)2152

北海道営業所 / 〒064 札幌市中央区南十条西1-4 ヤマハセンター
TEL.011(512)6114

仙台営業所 / 〒980 仙台市大町2-2-10 住友生命仙台青葉通ビル
TEL.022(222)6141

広島営業所 / 〒730 広島市中区紙屋町1-1-18
TEL.082(244)3748

YAMAHA feelin' club



T4960693003701